

石狩市における 2021 ～ 2025 年の シロマダラ (*Lycodon orientalis*) のモニタリング報告

Monitoring report of oriental odd-tooth snake (*Lycodon orientalis*)
from 2021 to 2025 in Ishikari City, Hokkaido, Japan

更科 美帆^{*1}・徳田 龍弘^{*2}・高橋 恵美^{*3}
Miho SARASHINA^{*1}・Tatsuhiko TOKUDA^{*2}・Emi TAKAHASHI^{*3}

キーワード：シロマダラ，モニタリング調査，石狩市，保全，生息環境

1. はじめに

シロマダラ (*Lycodon orientalis*) は、北海道、本州、四国、九州およびその属島に生息する日本固有種の小型のヘビである。本種は生息状況が十分に把握できておらず、2020 年に公表された環境省レッドリスト (環境省, 2020) には未掲載種であり、北海道レッドリスト改訂版 (北海道, 2015) では情報不足 (Dd) に選定されている。2025 年現在、シロマダラ生息地において石狩市は最北の生息確認地となっている。

北海道におけるシロマダラの見撃情報は、これまでに札幌市近郊、石狩市、函館市、七飯町、上ノ国町、積丹町、泊村等で報告があるが (例えば、鳥羽, 1996; 徳田, 2010; 徳田・山口, 2021), 発見件数は非常に少なく、2025 年 11 月末時点の既報では発見個体数は延べ 31 個体である。

石狩市では、2008 年に石狩市厚田区で初めてシロマダラが記録され (徳田, 2010), その後、徳田ほか (2012) や北海道希少生物調査会 (寺島, 2013; 寺島・高橋, 2014; 渡邊ほか, 2015) の調査でこれまでに複数回シロマダラが確認されて

いる。捕獲個体が産卵したこと等から (徳田・本田, 2012), この地域にはシロマダラが定住、繁殖していることがうかがえる。これを受けて石狩市では、2021 年からシロマダラのモニタリング調査を実施している。

そこで本報告では、これまでのモニタリング調査の結果について報告する。なお、生息環境の保全管理と地域住民への配慮の観点から、調査地点の詳細は明記しない。

2. 調査方法

調査地は、これまでにシロマダラが確認されている石狩市厚田区の 1 地点とした。調査は 6 月中旬～8 月下旬の間に年 1～2 回程度実施した。シロマダラの探索時間は概ね 16:00～21:00 とし、13:30～17:30 ごろにかけては餌資源となるトカゲ類の調査もあわせて実施した (表 1)。調査開始時には、現地にて温度計を用いて気温を計測した。コンクリート擁壁に沿って踏査を行い、コンクリート擁壁のクラック (亀裂) 内をヘッドライトや懐中電灯で照らしながらシロマダラを探索

*1 リンクアス 〒062-0902 札幌市豊平区豊平 2 条 7 丁目 1-25

*2 野生生物生息域外保全センター 〒061-1373 北海道恵庭市恵み野 5-10-4

*3 石狩市自然保護課 〒061-3292 北海道石狩市花川北 6 条 1 丁目 30 番地 2

した(図1)。また、周辺環境においても踏査を行った。シロマダラを確認した場合は地点を記録後、できる限り捕獲を試み、捕獲できない場合は種が確認できるよう撮影を試みた。シロマダラ以外の爬虫類を確認した場合も記録を行った。



図1. モニタリング調査の様子。

表1. 2021～2025年に石狩市で実施したシロマダラのモニタリング調査の概要。

年	調査日	時間	天候	気温	参加人数
2021	7月17日	15:30～17:30	晴れ	35℃	3名
		19:45～21:00	晴れ	23℃	3名
		21:45～22:15	晴れ	21℃	3名
2022	6月26日	16:00～21:00	くもり	22℃	3名
2023	6月18日	17:30～21:00	晴れ	17℃	3名
2024	6月24日	17:30～19:30	くもり	21℃	2名
	8月30日	13:30～15:30	晴れ	26℃	2名
2025	6月16日	17:00～20:00	くもり一時雨	19℃	3名

表2. 2021～2025年のシロマダラのモニタリング調査の結果。

年	調査日	発見時間	確認種(個体数)	齢・性	確認地点	発見場所	備考
2021	7月17日	19:37	ニホンマムシ(1)	成体・メス	その他	道路上	体長50-60cm
2022	6月26日	17:07	シロマダラ(1)	成体・不明	モニタリング地点	クラック内	脱皮する直前の様子
2023	6月18日	18:55	シロマダラ(1)	成体・不明	モニタリング地点	クラック内	やや小型
2024	6月24日	18:18	ニホンマムシ(1)	成体・不明	モニタリング地点	塩ビパイプ内	
		18:52	シロマダラ(1)	成体・不明	モニタリング地点	クラック内	
		19:03	シロマダラ(1)	成体・不明	モニタリング地点	擁壁上	脱皮殻
	8月30日	13:45	ジムグリ(1)	成体・不明	その他	山道	
		15:05	シロマダラ(1)	成体・不明	モニタリング地点	擁壁上	脱皮殻
2025	6月16日	18:32	ニホンカナヘビ(1)	成体・オス	モニタリング地点	擁壁の葉の上	



1)2022年 6 月 26日撮影.



2)2023年 6 月 18日撮影.



3)2024年 6 月 24日撮影 (白破線: 脱皮殻).



4)2024年 6 月 24日撮影 (白破線: 脱皮殻).

図 2. モニタリング調査で確認したシロマダラ.



1) ニホンマムシ (2021 年 7 月 17 日撮影).



2) ニホンマムシ (2024 年 6 月 24 日撮影).



3) ジムグリ (2024 年 8 月 30 日撮影).



4) ニホンカナヘビ (2025 年 6 月 16 日撮影).

図 3. モニタリング調査で確認したその他の爬虫類.

3. 結果

2021～2025年に実施したモニタリング調査の結果を表2に示す。調査の結果、2022～2024年までの間にシロマダラの生体3個体と脱皮殻2個体分を確認することができたが(図2)、2021年と2025年はシロマダラが確認できなかった。2021年の調査時は日中の気温が35℃、調査地点のコンクリート擁壁の日向の表面温度は最大60℃、クラック内でも39℃と非常に暑かった。また、2025年は調査時に小雨が降っていた。

調査時に確認されたシロマダラの生体は、全てコンクリート擁壁のクラック内で確認された。2023年に確認したシロマダラは、前年に確認された個体よりもやや小型であったことから、別個体と考えられた。脱皮殻については、一部分だけが擁壁上に張り付いた状態で確認され、非常に薄く破れやすい脱皮殻の特徴からシロマダラのものと推測された。なお、2024年6月24日に確認したシロマダラの生体については写真撮影ができていない。また、確認したどの個体も捕獲には至らなかった。

調査時に確認したその他の爬虫類を表2及び図3に示す。ヘビ類については、ニホンマムシが、2021年には調査地点付近の道路上、2024年には調査地点の排水用の塩化ビニール管内で1個体ずつ確認された。また、2024年には調査地点付近の林道でジムグリ1個体が確認された。トカゲ類は、2025年の調査時にコンクリート擁壁上の葉の上でニホンカナヘビ1個体が確認された。

4. 考察

本モニタリング調査により、石狩市の調査地ではほぼ毎年シロマダラを確認することができている。年1～2回という少ない調査頻度でありながらも生息が確認できているということは、本調査地でシロマダラが比較的安定して生息している

可能性が高いことを示唆している。一方で、確認個体数は毎年わずか1個体であり、餌となるトカゲ類についてもほとんど確認できていない。モニタリング調査はこれまで、シロマダラの過去の発見時期にあわせ6月中旬～7月中旬に年1～2回程度実施してきたが、本調査地における個体群の生息状況と動向把握のためには初夏、盛夏、初秋等、年3回程度の調査を継続して行う必要があると考えられる。また日中に餌資源調査としてトカゲ類の調査を行うことも望ましい。

本調査地の環境は、シロマダラが初確認された2011年から根本的な変化はない。一方で年々、ススキやイタドリ、クサフジ、ナワシロイチゴ、クズ等の草本類やヤマブドウ、オニグルミ等の樹木の繁茂が進み、生体が確認されているコンクリート擁壁の温度や日射環境に変化が生じている可能性がある。日射が途絶されるとトカゲ類の生息に影響し、それによりシロマダラの生息にも影響が出る可能性も考えられることから、本調査地における個体群の保全管理を考慮する上では、場合によっては草刈り等の人間の手を加えた管理についても検討が必要である。しかしながら、近年は気候変動の影響で気温は上昇傾向にあり、調査地でも気温が35℃、コンクリート擁壁の温度が60℃に達したときにはシロマダラが確認できなかった。トカゲ類は気温が上昇するにつれて日陰で休むことが増える。そのため、適度な日陰と日向の環境を創出することがトカゲ類とシロマダラの両種の保全につながると考えられる。

また、本調査地の特徴や過去の事例からシロマダラの生息には岩石地と、森林と草地が接する多様な環境が必要であると考えられる。石狩市内にはシロマダラの生息地に類似する環境が点在しており、未発見の個体群が点在していると推測されるが、石狩市においてシロマダラが生息するような環境は今後、開発等により失われる可能性も十分にあり得る。シロマダラは生態に未解明な点が多いが、都道府県版のレッドリスト(環境省、

2025) では絶滅危惧種や要注目種としてシロマダラを掲載している自治体が 28 地域もある。石狩市に生息するシロマダラの生態の解明と保全管理に向けて、石狩市における新たなシロマダラ個体群の探索が求められる。

渡邊雅樹・本田直也・中島宏章・寺島淳一, 2015. 2014 年におけるシロマダラ (*Dinodon orientale*) の調査報告. 北海道爬虫両棲類研究報告, 3: 12-16.

引用文献

- 北海道, 2015. 北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版(2015 年). https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/4/2/1/2/2/2/_/redlist_ryouseihatyyuu2015katagory.pdf(2025 年 11 月 28 日閲覧).
- 環境省, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>(2025 年 11 月 28 日閲覧).
- 環境省, 2025. いきものログ都道府県絶滅危惧種検索. <https://ikilog.biodic.go.jp/Rdb/pref>(2025 年 11 月 28 日閲覧).
- 寺島淳一, 2013. 2012 年調査によるシロマダラ (*Dinodon orientale*) の生息調査について. 北海道爬虫両棲類研究報告, 1: 24-26.
- 寺島淳一・高橋正基, 2014. 2013 年におけるシロマダラ (*Dinodon orientale*) の調査報告. 北海道爬虫両棲類研究報告, 2: 15-20.
- 鳥羽通久, 1996. シロマダラ. 日本動物大百科第 5 巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類(千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏編), 平凡社, 東京, 92-99.
- 徳田龍弘, 2010. 2009 年現在北海道で確認されているシロマダラ (*Dinodon orientale*) の記録について. 爬虫両棲類学会報, 2010(1): 32-35.
- 徳田龍弘・本田直也, 2012. 北海道産シロマダラ (*Dinodon orientale*) の産卵孵化について. 爬虫両棲類学会報, 2012(1): 6-9.
- 徳田龍弘・庄子信行・寺島淳一, 2012. 北海道で確認されたシロマダラ (*Dinodon orientale*) 続報. 爬虫両棲類学会報, 2012(1): 2-6.
- 徳田龍弘・山口裕司, 2021. 上ノ国町および積丹町でのシロマダラの発見. 北海道爬虫両棲類研究報告, 8: 20-21.

